



鹿児島県知名町における「子ども第三の居場所」 (B)
コミュニティモデルの開設と運営 (3年目)
事業報告

1. 「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

＜運営体制の構築＞

1人でも多くの子どもたちに通所してもらうため、スムーズな運営を行なっていくために、地域の大人を含めた多くの人たちに開催意義等を知ってもらうべく、さまざまなツールを制作



■オープンキッチンの開催案内チラシ

オープンキッチンの開催チラシを毎月作成し、関係各所へ配布するとともに、島内各所（スーパーや飲食店等）への掲示も実施



■オープンキッチン開催中のPOP
開催中であることを一目見てわかるように、施設ドアに設置しておくためのPOPを作成

1. 「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

< SNSでの情報発信 >

1人でも多くの子どもたちに通所してもらうため、スムーズな運営を行なっていくために、地域の大人を含めた多くの人たちに開催意義等を知ってもらうべく、SNSからの情報発信も定常的に実施。



■ SNSによる情報発信

SNS (Instagram・Facebook・X) から、毎月のスケジュールや活動内容などをメインに定常的な情報発信を実施。

1. 「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

<オープンキッチン（子ども食堂機能）の実施>

entakuでは離島地域という限定されたコミュニティで暮らす子どもたち・親たちに配慮し、「子ども食堂」という呼称をやめ、オープンキッチンという呼び方で統一。週3回（平日火曜日・木曜日（14:00～20:00）／土日いずれか（11:00～14:00）開催



1. 「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

<オープンキッチンメニューー例>

小学校・中学校等の給食の献立をチェックしながら、類似のメニューにならないように、栄養バランスにも注意しつつ、子どもたちが参加したい、食べたいと思えるメニューづくりを心掛けた。



1. 「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

<ワークショップ・イベントの開催>

施設を利用する子どもたちが、沖永良部島という離島の環境・地理的特性に縛られず、将来の選択肢を幅広く持ち、自らの夢を描き実現できるように、様々な属性の人と関わり、社会とのつながりを保持し、自ら考え、実践できる「生き抜く力」を育むために、地域住民との交流機会創出や探求型学習プログラム、ワークショップ等のイベントを開催。



<イベント・ワークショップの開催>

子どもたちを対象に、毎月1回以上のワークショップ・イベントを開催。

子どもたちに実際に作業をしてもらいながら、自ら考え何かを作り上げる成功体験を感じてもらい、プロアスリートに指導をしてもらいながら体を動かすことへの楽しさを感じてもらい、など、毎回テーマ設定を行い、島内外さまざまな講師およびゲストに登場してもらいとともに、地域内の大人にも積極的にボランティアに参加してもらいなど、子ども第三の居場所としての認知度向上にもつながった。